

国立大学法人大阪大学の中期計画新旧対照表

現 行	変 更 案	変更理由
<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>2 研究に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>②大学として重点的に取り組む領域</p> <p>78) ナノサイエンス、エネルギーの開発、IT、自然との共生、生命科学・生命工学・生命倫理、高度先端医療、知的財産権、社会の多様性と共生、新世界秩序や資源循環型社会の構築など、複合型諸問題、あるいは地球規模の諸問題に積極的に取り組む。</p> <p>また、21世紀COEプログラムに採択された以下の研究について、高い成果を挙げるよう、大学として重点的に支援する。</p> <p>ア. 「生命システムのダイナミクス」を、医学から工学まで広い範囲の研究分野を融合することにより解明する。</p> <p>イ. 生命の営みの鍵を握る「超分子装置」の機能と構築原理を解明する。</p> <p>ウ. ハイテクと社会基盤技術の融合による「ものづくり」を視野にいたれた先進構造・機能材料を開発する。</p> <p>エ. 材料、情報、生体、エネルギー、環境などの研究分野を融合することにより、「インターナノサイエンス」を創成する。</p> <p>オ. 自然と人間とが共存して持続可能な社会を実現することをめざして、「自然共生化学」を創成する。</p> <p>カ. 共生可能なネットワーク社会を実現する情報環境、すなわち「ネットワーク共生環境」の構築技術を確認する。</p> <p>キ. 「交錯する世界」「縫合される日本」「越境する芸術・文化」「臨床と対話」をキーワードとして、諸文化のインターフェイスという側面に焦点を当てた新しい人文学の構想を打ち立てる。</p> <p>ク. 感染病態形成の包括的な理解と人為的な免疫系の操作による感染の制御を目的とした新たな学問拠点を形成する。</p> <p>ケ. 超微量解析技術を駆使して、神経疾患、感染症、がんなどの難治性疾患や糖尿病などに直接関わりを持つタンパク質と糖鎖の機能を解明する。</p> <p>コ. よりよく“いきる、たべる、くらす”ための「口」のバイオサイ</p>	<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>2 研究に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>②大学として重点的に取り組む領域</p> <p>78-1) ナノサイエンス、エネルギーの開発、IT、自然との共生、生命科学・生命工学・生命倫理、高度先端医療、知的財産権、社会の多様性と共生、新世界秩序や資源循環型社会の構築など、複合型諸問題、あるいは地球規模の諸問題に積極的に取り組む。</p> <p>また、21世紀COEプログラムに採択された以下の研究について、高い成果を挙げるよう、大学として重点的に支援する。</p> <p>ア. 「生命システムのダイナミクス」を、医学から工学まで広い範囲の研究分野を融合することにより解明する。</p> <p>イ. 生命の営みの鍵を握る「超分子装置」の機能と構築原理を解明する。</p> <p>ウ. ハイテクと社会基盤技術の融合による「ものづくり」を視野にいたれた先進構造・機能材料を開発する。</p> <p>エ. 材料、情報、生体、エネルギー、環境などの研究分野を融合することにより、「インターナノサイエンス」を創成する。</p> <p>オ. 自然と人間とが共存して持続可能な社会を実現することをめざして、「自然共生化学」を創成する。</p> <p>カ. 共生可能なネットワーク社会を実現する情報環境、すなわち「ネットワーク共生環境」の構築技術を確認する。</p> <p>キ. 「交錯する世界」「縫合される日本」「越境する芸術・文化」「臨床と対話」をキーワードとして、諸文化のインターフェイスという側面に焦点を当てた新しい人文学の構想を打ち立てる。</p> <p>ク. 感染病態形成の包括的な理解と人為的な免疫系の操作による感染の制御を目的とした新たな学問拠点を形成する。</p> <p>ケ. 超微量解析技術を駆使して、神経疾患、感染症、がんなどの難治性疾患や糖尿病などに直接関わりを持つタンパク質と糖鎖の機能を解明する。</p> <p>コ. よりよく“いきる、たべる、くらす”ための「口」のバイオサイ</p>	<p>世界トップレベル研究拠点として採択された免疫学フロンティア研究センター構想について、本学の中期計画において位置付けを明確にするため。</p>

国立大学法人大阪大学の中期計画新旧対照表

現 行	変 更 案	変更理由
<p>エンス研究、即ちバイオデンティストリーを創生・展開する。</p> <p>サ. 「宇宙基礎物質の研究」「新物質の創成」「原理の探求」をキーワードとして、究極と統合に関する新しい基礎科学を推進する。</p> <p>シ. 最先端の実験的・理論的手法を駆使して、人工的に創製した新物質を含む広範囲な物質の機能に関する科学的解明とナノ工学の創出を推進する。</p> <p>ス. 新しい原子論的生産技術を創出し、最先端の基礎科学や先端産業の種々の分野の研究グループと連携し、要求される究極の精度の“物”を製作し、世界的な研究成果を達成する。</p> <p>セ. 大規模アンケート調査と経済実験にもとづいた行動経済学の分野を開拓し、マクロ金融分析、消費・貯蓄行動、市場取引の3分野における理論的・実証的解明を促進する。</p>	<p>エンス研究、即ちバイオデンティストリーを創生・展開する。</p> <p>サ. 「宇宙基礎物質の研究」「新物質の創成」「原理の探求」をキーワードとして、究極と統合に関する新しい基礎科学を推進する。</p> <p>シ. 最先端の実験的・理論的手法を駆使して、人工的に創製した新物質を含む広範囲な物質の機能に関する科学的解明とナノ工学の創出を推進する。</p> <p>ス. 新しい原子論的生産技術を創出し、最先端の基礎科学や先端産業の種々の分野の研究グループと連携し、要求される究極の精度の“物”を製作し、世界的な研究成果を達成する。</p> <p>セ. 大規模アンケート調査と経済実験にもとづいた行動経済学の分野を開拓し、マクロ金融分析、消費・貯蓄行動、市場取引の3分野における理論的・実証的解明を促進する。</p> <p><u>78-2) 世界トップレベル研究拠点として採択された免疫学フロンティア研究センター構想が、高い成果を挙げるよう、研究体制の整備充実に大学として最大限の支援を行う。</u></p>	